
WE ARE THE STUDENT COUNCIL !

市川

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

WE ARE THE STUDENT COUNCIL !

【Nコード】

N2172J

【作者名】

市川

【あらすじ】

元生徒会だった「私」の視点で書く、半分ノンフィクション、半分フィクションの生徒会の1年間のお話。生徒会なんて、だいたいそんなもん。

01 THE クラウチングスタート

「ねえ、菅野、生徒会やんない？」

担任の先生のその一言が、私の人生を大きく揺るがしたのであった。

「は？^^」

私は訊き返す。だが先生は、

「だから、生徒会。ちよつとやんないかなうって、誘ってみようと思っただけど。」

と、スラスラと答える。畜生想定の範囲内ってどこか。

「・・・まあ、考えておきます。」

私はうつむく。

2年の秋と冬の境目。校庭の木がハゲて来る頃。in三者面談。

予想外だった。1年ちよつと先の高校受験のお話で私の頭はいっぱいだったから。

わかんなかった。そんな、急に生徒会のこと、話されるなんて。

寝る前、私は暗い天井を見つめながら 先生に言われたことをぼんやりと思い出す。

生徒会ね・・・。

思ってもいなかった。

私は生徒会本部、の下の給食委員に所属していた。

給食委員は1年生の時からやっていて、2年生も仕事に遣り甲斐があると思っただので続けた。

私は給食委員の個人的な活動として、「完食」という運動を掲げて

いる。

書いて字のごとく、「給食をすべて食べ切る」活動である。

私がこの運動をしている理由、

世界には飢餓に苦しんでいる人々もいる、その人たちのことを思うと残飯を残すのはもったいないと思う。

給食を作ってくださっている方に、感謝の気持ちを込めて残さず食べる。

給食は義務教育9年間が終われば、もう一生 給食を食べないという人も少なくは無いので、給食を大事にしてほしい。

主な理由は、こんな感じだ。

私のクラスの2年3組では、この活動がだいぶ普及してきてくれて嬉しく思っている。

そんな、給食委員。

それを手放すのは、少しばかり惜しい気持ちがするけども、どうしようか……。

寒い。

最近、どうもおかしい。

地球温暖化とか、どこ行ったんだよ、ってくらいに、今朝は寒い。

そんな朝。私はだらだらと歩く。

生徒会のことも、ちよつとは頭の隅にあるけど。

立候補期間は あさってまで。

いきなりだよなあ……。と、私はマフラーに顔を埋める。

国道の横断歩道を渡ったとき、ふっと私の前を人影がよぎる。私は顔を上げる。横顔が見えた。

「あつ、松本」と、私は声を上げる。

その瞬間、通り過ぎようとした横顔は私を見据えて、「おう。」と言った。

「相変わらず無愛想だな。」と、私はニヤニヤする。

松本はむっとしたように私を睨み、「黙れ、カツラ。」と言った。はいはい、カツラね。と、私は流し目になる。

カツラ、というのは私のあだ名である。

私の前髪（猫毛）がニヨロニヨロしていて、エクステのようになっているから。

エクステ・・・から、カツラ。なんともダサイあだ名である。

しかし私はそんなことはどうでもいい。なんと呼ばれようが私は私なのである。

松本は嫌そうに足早に歩く。

私はホントかわいくねーなコイツ。と、松本の後姿を見る。

松本、何か用があったような気がする。なんだっけ。

余計なことが脳の中で渦巻くから、私の歩くスピードは、緩む。

「あッ、」と、私は声を上げる。

でも、もうその時には、松本は30メートルほど先を歩いていた。

「松本！」

私は松本を呼ぶ。確かに、冷たい空を切り裂く空。

だけど、届かなかったのか。もう一度、「松本お！」

松本はしぶしぶ私を振り返る。眉をひそめて、「何？」と私を見る。
「お前さ、今年も生徒会やんの？」

松本は、いぶかしげに私を見る。

「は？」松本は顔をしかめた。

「・・・んー。」と私は うなる。次の私の言葉が出る前に、松本は、

「・・・わかんねえ、」と、それだけ告げて、歩き始めた。

松本。

2年2組。隣のクラスで、生徒会役員。

新しく生徒会に入る（まだ決まっていはいないけど）私にとっては先輩となる。

顔立ちもそこそよくて、勉強の成績は定期テスト常にTOP10をキープする。

しかも、運動神経もよくて、サッカー部部长。で、生徒会。

ありえん。裏番みたいな感じ。と、みなさん思ってたらしやるかもしれないが、

こいつ、ドスケベである。

ドM。

しよっちゅうクラスのDQNに手足を縛られて ニヤニヤしている。

しよっちゅうトイレでDQNにズボンを脱がされて、ニヤニヤしている。

しよっちゅうエロ話を耳打ちされて、ニヤニヤしている。

ちなみに、この間は同年の某男子にキスされたらしい。そのときもまた、ニヤニヤしている。

もったいないな・・・と私は思う。

ちなみに、彼の友人いわく、「松本のプロフィールに書くことといったら『生徒会』か『エロ』しかねえ」らしい。

禿同である。

松本と同じクラスの友人に、昼休み 有力な情報を伺えた。

「えっ、立候補するって？」と、私は水道の蛇口を閉めながら言う。友人はこくこくと頷いて「うん。」と言った。

「訊いたの？松本に。」

「いや、見た。」

「はあ？」私は顔をゆがめる。そして、手のひらをグーパーしながら、指先から水を飛ばす。

「うん、あの、立候補の決意表みたいなの。あれ、選挙管理委員会の人に提出してたし。」

「ふん・・・」と、私は頷く。やはりな、と、心のどこかで頷く自分と重なる。

今朝、松本に生徒会をやるかどうか尋ねたのは 別に、松本がやるから私もやる。とか、そういう意味ではない。

超エリート（スケベなことを除けば）の松本が魅かれる生徒会とは、私は思い始めたのである。

実は 私と松本は1年生のとき 同じクラスで一緒に給食委員を担当していた。

私が完食という運動を始めたのは 彼が生徒会で給食委員を抜けてからである。

だから私は 給食委員から生徒会に入り、松本と一緒に完食活動全校に・・・。

という 考えがふと頭を過ぎる。いいじゃない。それで。

新しい伝統を 私たちの学校に創ろう。

それでいいかな。立候補した動機。

「でね、松本しかも会長だつて！」と、友人は私を見る。

「は？」私は顔をしかめる。

なんだと。生徒会『長』の座まで、松本は狙おうとしているのか。セコい。内申が素晴らしいことになる。

「すげーな。」と、私は続けた。羨ましいな。という言葉も、一緒に喉から出そうだった。

松本が会長をやろうと言っても、私は会長には立候補しないつもりだ。

役員で十分である。（うちの学校は役職が会長しかない。ほかの役員は全部役員である。ある意味楽。）
なぜか。

私は別にそんな目立ちたくないし。内申は惜しい気もするが、私だって美術部部长である。

それに、『生徒会長』というのは堅苦しくて、真面目クンではないといけないような気がする。

年がら年中教室でギャアギャア騒いでいる私には向いていない。

それに、松本はモテるから。

女子の票もとられて 私は落ちるということになる。多分。

やってみないとわかんないけど、やったら95%そうだから。怖くてやらない。

「先生、私 生徒会やります。」

そう、先生に告げたのは 立候補期日最終日の放課後であった。

02 別に、

生徒会立候補しちまったYO という気持ちが抑えきれない。

ワクワクと、ドキドキと、バクバク。

生徒会って、どんなもの？と、私は不安である。

その前に、生徒会に入る前の立候補演説。鬼門である。（倍率は1
なのだが）

まあどーせ立候補演説なんて、誰も聞いてないし……。信任だし。
と、私は今朝放送された内容どおり、昼休みに推薦者と一緒に会議
室へ向かう。

集まったのは14人だった。

生徒会立候補者7名。推薦者7名。

生徒会となるのは7名。会長2年より1名。役員2年より3名、1
年より3名。

定員ぴったりである。やはり、生徒会というのはみんなに忘れ去ら
れている委員会なのである。

そんな忘れ去られている委員会に入ろうとする 私も私だよなー・
・。と会議室を見渡す。

ちゃんと松本もいた。私の担任の先生から渡された 立会演説会の
内容が書かれた紙をじつと見つめている。

くそー真面目クンだな……。と、私は目を細めて松本を見る。

そのほかに私と同じ学年の人は……。
ロッキーと、リリーである。

ロッキーはちょっと肌が黒くて電子機器に強い ちょっと小柄な男
の子である。

こっちも真面目。でも、どちらかというと松本よりは話しやすい。

松本はひどくつつけんどんである。

ちなみにロッキーは野球少年でカープファン。

あと、ロッキー、というのは もちろんあだ名である。由来はわからないらしい。苗字は佐藤である。

リリーは私より背が高くて、ふつくらとしていて ツヤツヤした黒髪のおかつぱの女の子である。あんまりしゃべったことはない。

おっとりした性格で 真面目。全員真面目・・・で、私の出る幕なんか無いではないか。

でも、同性の人がいて良かったな！。と思う。やっぱり、男子だけだと不安になる。

真面目で真面目で真面目の鏡。ホント。だが、ジャニオタ・・・らしい。詳細は知らんけど。

リリーもあだ名である。本名は「山田ユリ」なので、「ユリ」から「リリー」。らしい。

1話でも言ったが、私のあだ名はカツラである。理由は略。

私の苗字は「菅野」である。「カンノ」と読む。

カンノだから、もっとかわいい「かのん」とか、そういうあだ名をつけてほしかった。

こう見ると、松本だけあだ名がない。別にいいけど。

そういえばロッキーは松本のこと、「まっちゃん」って呼んでたな。私が松本にあだ名をつけるとしたら、『エロ会長』かな。

で、私以外の3人は全員生徒会を経験済みである。だから、全員先輩である。

新しく入る1年生と一緒に 私は生徒会となる。予定。

それから大まかな演説会の内容を聞いて 解散となった。

演説会は来週の木曜日。それまでにスピーチの内容を考えてこい。とのこと。

もう大体言うことは決まってる。１年間続けてきた「完食」のこと。

夕焼け小焼けの帰り道。

私を松本が追い抜いた。「松本。」と私は松本を呼んだ。

松本は おとといの朝と同じように眉間にしわを寄せて、「何？」と私を振り返った。

私はニヤツと笑って「演説頑張れよ。」と言った。

そしたら、松本もちよつとだけ笑って、「お前もな。」と言い、向きを変えて歩き始めた。

いつも硬い表情の松本が 優しく笑うのを見たのは 久しぶりだった。

いよいよ演説会。

言うことを暗記しようかな・・・と思ったけどめんどくさかったからやめた。信任だし。

２年生で演説する順は 会長に立候補した松本、それから役員に立候補した私、ロッキー、リリーの順番になった。１年生はリリーのあと。

体育館のステージの上で全校生徒に見つめられながらパイプ椅子に座っているのが、意外にも緊張する。

そんなに緊張はしない、と思っていたけど 生徒が来るとひしひしとわかる。やっぱり、暗記してくるべきだったな。

それから、演説会の始まりのチャイムがなって、演説が開始された。選挙管理委員の生徒に名前を呼ばれた松本は、机の前に歩いて行く。

うわっ やべえよ、と私は肩をすくめる。
思い返してみれば 演説会で一番緊張したのは松本がしゃべってる
ときだったなあ……。

松本は 去年突然亡くなった校長先生のお話も織り交せて、超絶レ
ベルの高い演説を完成させていた。

は？^^こんなんじゃない私の出る幕ねーよ（２度目）

しかもなんで私のような凡人が松本のようなレベル高い人間の後に
演説しなきゃいけないんだよ マジ絶望。

私は青ざめていく心の中で、そんなことを思っていた。

演説が終わったのか、パチパチ、と生徒の群集から拍手が起きて、
私はびっくりして跳ね上がる。

隣のロッキーが、「カツラ緊張しすぎだよ、」と、ちよつと笑つて
くれた。

うん、緊張するのは当たり前だね^^ みんな生徒会経験者なんだ
からね……、と、私はため息をついた。

で、そんな感じで松本は私の隣に座る。その時もまたびっくりして、
私はガタンと椅子を揺らす。

そしたら今度は松本が「おい次だぞ。頑張れよ。」と、勝ち誇った
ように私の耳で囁いて、うぜええええと、私は歯を食いしばった。
それから、私は名前を呼ばれて、ロボットのようになりガチガチになり
ながら 台へと向かった。

私が演説で何を言ったのか、覚えてない。

完食がどうか、伝統がどうか、そんな言葉ばかり並べていた
ような気がする。気がするんじゃないくて、そうだった。

演説が終わって、拍手の中私は椅子に沈み込む。緊張が解ける。ヤ
バかった……。と、私はため息をついた。

そのあとは、頭が真っ白になって、ぼーっとしていて、ロッキーの演説が始まった。

それで、推薦人がロッキーのことを、

「オバマに似ている佐藤くんがこの中学校を変えてくれます！Yes, he can! です！」

とか言つて、一同ブフォ………（；；※；；）

で、推薦人の後のロッキーの演説で「オバマに似ている佐藤です、」とか言つてまた………（；；※；；）ブフォ
みんなすごい、ほんとパフォーマー。私の演説なんてつまなくて、なんだか落ち込んでしまった。

（言わずもがな、リリーの演説も神がかった）

そんなんで、私は史上最悪のテンションで舞台から降りた。

信任投票なんだけど、なんだかつまんねえな……と、私は思いながら教室に戻った。

投票の結果は明日。

私はうな垂れながら、給食を食べた。

私の頭の中ではロビーの掲示板に、でかかと、

「カツラなんぞ、生徒会に入る資格はねーよ」

と、掲示されている光景を余裕で妄想することができた。

03 レッツゴー生徒会室

「・・・ああ。」と、私は落胆の声を上げた。

選挙の翌日。寒いロビーに堂々と張り出された模造紙に、私の名前は、

あった。

無いほうが良かった。

「2年3組 菅野 ヒヨリ（信任）」とババーンと載っていて、あーあ、と私は思った。

なんだい、自分から立候補したくせに、と、私の隣で私が喚く。

「うるさいなつ、」と私は呟いて顔を上げて模造紙を睨む。

そしたら、隣で「へ？」という声がして、私は「ちよつと黙っててよバカ！」とぐりんとそつちを向く。

ロッキーがボーゼンと立っていた。

「・・・はい。」と、ロッキーはため息をつきながら苦笑いをした。

「あれ？」と、私は首を傾げる。私はきょとんとしているロッキーに首を振って、

「違う、すみません。いいですよ喋って。」と言った。

ロッキーはまた、「・・・はい。」と笑った。

「よかったね 全員大丈夫で。」と、ロッキーは模造紙を見上げながら呟いた。

よくねーよハゲと私は心の中で呟いて小さく頷いた。

だから私は、

「ロッキーんところ 『2年4組 佐藤 ダイチ』じゃなくて『バラク・オバマ』だったら面白かったなー。」

とニヤニヤした。

ロッキーは、それを聞いて苦笑いをした。

ロッキーの笑い声は、いつもどこか寂しそうに聞こえるから、もつと大笑いしてほしいな、と私はぼんやり思った。

「でさ、カツラ」とロッキーは私を振り向く。私はロッキーの方に目をやった。

「さっき、誰としゃべってたの？」と、ロッキー。

私は「は？」とロッキーを振り返って、「別に誰とも・・・、」とぶっきら棒に呟いた。

「・・・あ、そう。」と、ロッキーは模造紙に向き直る。私は、「何で、」と尋ねた。

「だって、カツラさっき『うるさい』とか『黙ってるバカ』とか言ってたし。」

うん、それは心の中の自分、先生に気に入られたい自分と話してた。だから私は、「ねーよ、」と笑ってもう一度、模造紙を見つめた。

あー・・・。

私のダサイ名前の上にはバツチリ「会長 2年2組 松本 クウヤ」と書いてあつて、私はため息をついた。

くそー・・・ 今度からこのエロにこの学校を動かされるのか・・・と、私は考えていた。

そしたら隣のロッキーはうれしそうに、

「これからはまっちゃんが会長だね。松本政権誕生だねえ、」と笑った。

はあ？何喜んでんだよイエスウィーキャン。いい迷惑だよ。

でも、去年 松本と一緒に生徒会をやっていたロッキーが、そんなに松本に期待するなんて。

やっぱ、松本はそーいうことにもスペシャリストなのだろうか。どうでもいいけど。

悔しいけど。

それから、次の週の生徒会が運営している生徒朝会で、私たちは旧役員の方々からバトンを受け取った。

このバトンは、私にとって重いだろうか。それとも、軽いのだろうか。

落としたら割れる 重いガラスのバトン。

・・・落としても無事なアルミホイルの軽いバトンが良かったな。いや、今の私のバトンは、アルミバトン。

私の前で背筋を伸ばして体育座りをしている松本の握ってるバトンは、きつと、ガラス製。

でも、私の受け取ったバトンだって、思いつきり握れば、グシャグシャになってしまう。

どっちにしろ、大切にしないと、次の生徒会の人たちに胸を張ってバトンを渡せない。

1年先の心配なんて、してんじゃねーよ。と、また私は笑う。うるせーくそ。死ね。

旧役員だった松本、ロッキー、リリーはそのまま新役員となった。

旧役員の3年生は抜けて、新役員の私たち、それと1年生が生徒会に入った。

そして、今日の放課後、生徒会室に集合ということになった。

生徒会室とか場所わかんねーよ・・・と、私は頭を掻きながら体育館を後にした。

2年生4人で足早に歩きながら、教室に戻った。

その途中、松本が笑いながら「あー、緊張したあ。」とため息をついた。

それを聞いて、私は振り返る。そして、「松本も緊張とかすんの？」と尋ねた。

松本は「え？」と、私に聞き返して、笑いながら「当たり前だろ。」と言った。

「・・・へー。」と私は半眼で答えた。

あの松本ですら、引継ぎ式でちょっとした挨拶を言うのも緊張するのか。

じゃあ、この間の演説会では？
訊かなかったけど。

「じゃ、今日の放課後。」と、松本は体育館より一番近い2組の教室へと吸い込まれて行った。

私は黙って手を挙げた。ロッキーは「じゃねー。」と、ニコニコ笑った。

そして次に私は、3組の教室に入り、二人と別れたのであった。

そして、放課後。

いつも一緒に帰る友人たちには、生徒会がある。と告げた。

そしたら友人は声を弾ませて、「初仕事？がんばってね！」と笑った。

ああ、うん。と、私は曖昧に頷いて、友人たちと別れた。

初仕事って、おいおい。

仕事なんてでっけえことじゃねえよ。と、私はため息をついた。
でも、仕事？

私がこの学校に「完食」という新しい伝統を創るのは、仕事？

わかんない。

初めてだから。

言い訳にしかない。

うぜえな、私。

自分にこんなイライラしたの、久しぶり。

そんな風に生徒会の妄想をしてたら、とんとんと肩を叩かれて、私は後ろを振り向いた。

「えへへー、」と、リリーが笑っていた。

うわ・・・ なんかいい匂いがしそうな息だなあ、と私も笑った。

「菅野さんは生徒会初めてだね、」と、リリーは言った。

「ああ、うん・・・。」と、私は頷いた。リリーのようなお嬢様じみてる子とお話するのは苦手である。

「じゃさ、生徒会室の場所、わかる？」と、リリーはふわっと首を傾げる。

おお・・・ いいなあ、こんな子。と、私は思いながら「わかんない。」と言った。

「そお？じゃあ、ついてきて。」と、リリーは私を追い越す。

私はリリーの2歩後ろをついて歩く。リリーは綺麗な黒髪をゆらゆら揺らしながら私の前に行く。

はあ・・・ よりによって話しぶらい子と生徒会かあ・・・。松本といい、リリーといい。

まあ愚痴は言っただけじゃない。私は望んで生徒会に入ったし。メンツはドンマイ。

1組の先を超えると、地味な教室が現れた。

普通の教室より明らかに狭い。生徒会室なんて、そんなもん。

でも、ボロっちいドアと黄ばんだ「生徒会室」という紙が挟まれているクラス札を見て、

すげえ使い込まれた感あるなあ、と私は感心した。
感心してる間に、リリーはもう生徒会室の中に入っていて、こつちを見ていた。

だから私は慌てて生徒会室に入り、ドアを閉めた。

松本がどんと座っていた。

ドアと向かいになっている大きな窓を背にして、誕生日席に座っていた。

うわっ・・・絵になるわぁ。と、私は舌打ちをして歩き始めた。
そしたら、ぞるんつと足が滑って、私は股を180度に大きく開いた。

「アアオー!!」と、謎の奇声を発して、私は床にすっ転んだ。
痛つつてえ!もともと体が硬い私、もうこのとき私は、股関節がいかれてしまったのかと思ったほどであった。

ロッキーの楽しそうな笑い声が聞こえて、私は顔をあげた。

「おもしろー、カツラ。そんな生徒会いきなり入ってギャグかまさなくても・・・。」

と、ロッキーはオバマのような白い歯を見せて朗らかに笑う。

私は教室の床とは少し違う、生徒会室の床をのた打ち回りながら、
「わざとじゃないよ。」と言った。

それでもロッキーは、この間、選挙の発表の日に会った日より格段に楽しそうに笑っていて、良かった。

松本はちよつとだけ笑って、「生徒会室の床、滑りやすいから気をつけろよ。」と言った。

早く言えよな、そういうことは。と私は言って、立ち上がった。

生徒会室は、外も地味だが中も地味だった。つか、生徒会室の中は倉庫だった。

見ただけで、動くのかわからないボロいパソコン、

ダンボール、色画用紙、紙テープ、クリアファイル、筆、模造紙、テープ類……。

と、私が生徒会室の品々を物色していると、松本が、

「おい菅野。あとで生徒会室のモンは紹介してやるから。とつとと席に着け。」と言った。

私は松本を振り返って「あ、はい。」とため息をついた。長いまっげの奥にガラス玉のような目が光ってる。うえー、怖い。と、言われたものの、どこに座っていいかわからない。

私がまたオドオドしていると松本が、「そこでいーよ。」とめんどくさそうにあごをしゃくった。

松本の視線の先には、松本に一番近い席。で、ロッキーの隣だった。はあ？最悪だよ。と私は思いながらしぶしぶ席についた。

私の隣のロッキーは私のほうを向いて、笑った。「よろしくね。」

「ああ、はい。ども。」と私も頭を下げた。

そのあと、1年生もぞろぞろと生徒会室に入ってきて、新生徒会となつて初めての生徒会が始まった。

「気をつけ、礼。」という松本の号令で、皆が一斉に頭を下げた。

私は半テンポ遅れて礼をした。

さあ、いよいよ生徒会生活の幕開けだ。

……幸か不幸か。

03 レッツゴー生徒会室（後書き）

いつも見てくださってる方ありがとうございます。

市川は1ヶ月先に受験を控えているため、少しの間更新を停止させていただきます。

無事に合格できたら帰ってきます！（*、´、｀）ノシ 頑張ってください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2172j/>

WE ARE THE STUDENT COUNCIL !

2011年2月1日16時05分発行